

豚に真珠

マタイの福音書 7章6節

はじめに

私がウェルカム・サンデーで説教をさせていただく時は、マタイの福音書 5-7章に書かれているイエス様が語られた説教からお話しています。

今日の聖書箇所には、「**真珠を豚の前に投げはいけません**」という言葉があります。このイエス様の言葉から、「豚に真珠」という諺が生まれました。「豚に真珠」という諺の意味は、「値打ちが分からない者には、価値のあるものを与えても意味がなく、無駄である」ということです。「猫に小判」という諺も同じ意味です。「故事ことわざ辞典」には、「豚に真珠」という諺の注意点として、「太った人に宝石は似合わないという意味で使うのは誤り」とあります。あくまでも「豚に真珠」という諺は、似合うかどうかではなく、値打ちが分かるか、価値が分かるかどうか、ということが問題なのです。

「豚に真珠」という諺にもなったイエス様の言葉は、本来、どういう意味で語られた言葉なのでしょう。今日は、そのことを詳しく学びたいと思います。

1. 聖なるもの、真珠とは何のことか

イエス様は、こう言われます。「**聖なるものを犬に与えてはいけません。また、真珠を豚の前に投げはいけません。犬や豚はそれらを足で踏みつけ、向き直って、あなたがたをかみ裂くことになります**」。イエス様は、この言葉で何かを例えておられると思います。ですから、ここでの「聖なるもの」や「真珠」は何を意味しているのか、また「犬」や「豚」は何を意味しているのかを考える必要があります。

まず「聖なるもの」や「真珠」についてですが、旧約聖書のヨブ記 28：18には、こういう言葉があります。「**珊瑚や水晶は言うに及ばず、知恵の価値は真珠にもまさる**」。ここでは、「知恵」は「真珠」にまさるという文脈で、「真珠」という言葉が出てきます。またマタイ 13：45では、「真珠」は「天の御国」に例えられています。「**天の御国はまた、良い真珠を探している商人のようなものです。高価な真珠を一つ見つけた商人は、行って、持っていた物すべてを売り払い、それを買います**」。「天の御国」は、「真珠」のように価値があるもので、持っていた物すべてを売り払ってでも、手に入れるべきものだと言われています。

つまりイエス様がここで、「聖なるものを犬に与えてはいけません。また、真珠を豚の前に投げはいけません」と言われている「聖なるもの」または「真珠」は、「天の御国」のことであり、その「天の御国」に入るための「知恵」のことではないかと思えます。では、「天の御国」に入るための「知恵」とは、何でしょうか。それは、イエス・キリストの「福音」と言えるのではないのでしょうか。

では、イエス・キリストの「福音」とは何でしょうか。それは、イエス・キリストによってもたらされた「良い知らせ」「グッドニュース」であって、イエス・キリストを神であり、私たちの救い主であると信じる者は誰でも、すべての罪が赦され、天の御国に入ることができ、永遠のいのちを得ることができるというものです。

しかし私たちは、このイエス・キリストの「良い知らせ」「グッドニュース」を信じる前に、「悪い知らせ」「バッドニュース」を信じなければなりません。それは、私たちの最初の先祖であるアダムとエバが、神様の命令に背いて禁断の木の実を食べた時から、すべての人が罪の性質を持って生まれて来て、人生において罪を重ねて、自らの上に神様の怒りと呪いを積み上げ、その結果、人生のあらゆる苦しみと悲しみを引き起こし、肉体の死と死後には永遠の地獄の刑罰を受けなければならないという定めの下にあるということです。そして、イエス・キリストを信じる以外に、この定めから救われる道は一つもないということです。

イエス・キリストの「福音」は、私たちが罪から救われ、永遠の地獄の刑罰から救われる唯一の道を私たちに教えています。私たちが「天の御国」に入ることができる唯一の道です。これは、「真珠」よりも価値があるもので、持っている物すべてを売り払ってでも手に入れるべきものなのです。それは、私たちの人生の根本的な問題や魂に関わることであり、私たちの死後、そして永遠に関わることだからです。

2. 犬や豚とは誰のことか

イエス様は、「福音」を「犬」に与えてはならない、また「福音」を「豚」の前に投げはならないと言われます。「聖なるもの」や「真珠」が「福音」を意味するなら、「犬」や「豚」はいったい何を意味するのでしょうか。

当時のユダヤ人にとっては、犬は野蛮な動物でした。私たちにとって犬は、身近な存在であり、ペットやかわいらしい動物、ある人にとっては家族同然のような存在でもあります。しかし当時のユダヤ人にとって、犬はペットではなく、野良犬のことであり、野犬のことでした。聖書の中では、犬が人間の死体の血をなめたり、肉を食べたりする出来事が描かれています。また犬というヘブル語は、「かみつく」とか「つかむ」という意味の言葉で、犬は野蛮で危険な動物として見られていました。また豚は、ユダヤ人にとって汚れた動物でした。それゆえ食べてはいけない動物であり、その死骸に触れてもいけなかったのです。

では、そのような「犬」や「豚」が意味しているものは何でしょうか。ユダヤ人は特に、ユダヤ人以外の異邦人を「犬」や「豚」と呼んだようです。彼らが、真の神様も知らない汚れた野蛮な民だと考えていたからです。では、「犬」や「豚」は、真の神様を知らない人、キリスト教を信じていない人を意味するのでしょうか。そうであるならば、イエス様は、「福音」を、真の神様を知らない人、キリスト教を信じていない人に伝えてはいけないということになるのでしょうか。それでは、キリスト教の伝道を、イエス様が禁じていることになってしまいます。

そうではありません。イエス様は、今日の聖書箇所の後半で、「犬や豚はそれらを踏みつ

け、向き直って、あなたがたをかみ裂くことになります」と言っています。ですから、イエス様が言われた「犬」や「豚」というのは、私たちを救いに導く「良い知らせ」「グッドニュース」である「福音」を、踏みつけ、その「福音」を宣べ伝える人たちに、噛みついてくるような人たちのことであると考えられます。つまり、イエス様が言われた「犬」や「豚」というのは、イエス様を信じていないすべての人、キリスト教を信じていないすべての人のことではなく、「福音」を聞いたにも関わらず、その「福音」を故意に踏みつけ、つまり頑なに拒否し、馬鹿にし、「福音」を宣べ伝える人たちを傷つけ、攻撃してくるような人たちのことではないかと思えます。

また使徒ペテロは、一度はキリスト教を信じたにも関わらず、その信仰から離れ、この世の生活に戻っていくような人たちのことを、「犬」や「豚」に例えています。Ⅱペテロ 2：20-22 には、こうあります。「**主であり、救い主であるイエス・キリストを知ることによって世の汚れから逃れたのに、再びそれに巻き込まれて打ち負かされるなら、そのような人たちの終わりの状態は、初めよりもっと悪くなります。義の道を知っていながら、自分たちに伝えられた聖なる戒めから再び離れるよりは、義の道を知らなかったほうがよかったです。『犬は自分が吐いた物に戻る』、『豚は身を洗って、また泥の中を転がる』という、ことわざどおりのことが、彼らに起こっているのです**」。つまりイエス様が「犬」や「豚」と呼んでいるのは、私たちを救いに導く「福音」を聞き、それを知っているにも関わらず、それを拒み、捨て去り、踏みつけ、教会を攻撃するような人たちのことなのです。

イエス様は、弟子たちを宣教旅行に遣わされた時にも、こう言われました。「**だれかがあなたがたを受け入れず、あなたがたのことばに耳を傾けないなら、その家や町を出て行くときに足のちりを払い落としなさい**」(マタイ 10:14)と言われました。「福音」に耳を傾けない人、「福音」を伝える人を受け入れない人がいる時は、足のちりを払って他の所に行きなさいと言われます。また使徒パウロも、ユダヤ人たちが「福音」を拒んだ時、こう言いました。「**神のことばは、まずあなたがたに語られなければなりません**でした。しかし、あなたがたはそれを拒んで、自分自身を永遠のいのちにふさわしくない者にしています。ですから、見なさい、私たちはこれから異邦人たちの方に向かいます」(使徒 13:46)。パウロは、ユダヤ人たちが「福音」を拒み、口汚くののしったため、彼らに「福音」を伝えることを止め、異邦人たちに福音を語り始めたのです。

おわりに

イエス様は今日の聖書箇所、真珠のように価値のある「福音」を、その価値も分からず拒み、踏みつけ、教会を攻撃してくるような人たちに、いつまでも提供し続けてはならないと教えているのではないかと思えます。イエス様は決して、キリスト教を信じていない人、未信者を、「犬」や「豚」呼ばわりして、見下しているではありません。イエス様は、「**全世界に出て行き、すべての造られた者に福音を宣べ伝えなさい**」(マルコ 16:15)と言われます。イエス・キリストの「福音」は、すべての人に平等に語られなければなりません。私たちは、すべての人に「福音」を語る努力をしなければなりません。また私たちは、すべての人が「福

音」を聞く機会を提供しなければなりません。しかし、「福音」を聞いたにも関わらず、その価値、素晴らしさが分からず、それを拒み、踏みつけ、馬鹿にし、攻撃してくるような人たちに、いつまでも「福音」を語り続けるべきではないのです。そのような人たちに「福音」を語り続けることは、「福音」そのものの価値を下げることになるからです。イエス・キリストの「福音」は、十字架のメッセージです。イエス・キリストが、私たちのために血を流され、体を裂かれたというメッセージです。そのメッセージが馬鹿にされ、踏みつけられて良いはずがありません。そのメッセージが馬鹿にされ、踏みつけられるなら、私たちは足のちりを払い落として、他の人にメッセージを届けに行くべきです。なぜなら、この世界には、私たちを救いに導く「良い知らせ」「グッドニュース」である「福音」を、まだ一度も聞いたことがない人が沢山いるからです。「福音」と真面目に向き合おうとしない人に、いつまでも関わり続ける必要はありません。

では、「福音」は誰に語るべきなのでしょう。「福音」を聞くにふさわしい人とは、誰でしょうか。それは、次回の聖書箇所である 7-8 節に出てくる人たちです。**「求めなさい。そうすれば与えられます。探しなさい。そうすれば見出します。たたきなさい。そうすれば開かれます。だれでも、求める者は受け、探す者は見出し、たたく者には開かれます」**。「福音」は、求める者にこそ与えられなければなりません。また探す者にこそ、見出されなければなりません。またたたく者にこそ、開かれなければなりません。私たちは、求めている人にこそ、「福音」を語らなければなりません。求めてない人、否、求めていないどころか拒み、踏みつけ、攻撃する人には、「福音」を語り続けてはならないのです。「福音」は、「真珠」のように価値あるものだからです。ですから「福音」を安売りしてはならないのです。私たちは、「福音」の価値を守り、ふさわしい人に「福音」を届けなければなりません。

今日の聖書箇所から、私たちが問われることは、私たちは「福音」を価値あるものと捉えているかということです。「真珠」のように価値あるもの、今で言うならば、「ダイヤモンド」のように価値あるもの、持っている物をすべて売り払ってでも手に入れたいもの、全財産をかけてでも手に入れたいものとして捉えているのでしょうか。「福音」を安物のように扱っていないのでしょうか。「犬」や「豚」のように、踏みつけたり、噛みついたり、雑に扱っていないのでしょうか。また高価な「福音」を安売りしていないのでしょうか。

「福音」は、いつまでも私たちに提供されているものではありません。もし私たちが、それを拒み、馬鹿にし、受け入れなければ、たちまち「福音」は私たちから取り去られてしまうものです。私たちは、「福音」が提供されているうちに、求め、探し、たたくことが期待されているのです。使徒パウロは、こう言っています。**「私たちは神とともに働く者として、あなたがたに勧めます。神の恵みを受けないようにしてください。神は言われます。『恵みの時に、わたしはあなたに答え、救いの日に、あなたを助ける。』見よ、今は恵みの時、今は救いの日です」**(IIコリント 6:1-2)。ぜひ、この恵みの時、救いの日に、「福音」を信じ、受け入れていただきたいと思います。「求めなさい。そうすれば与えられます。探しなさい。そうすれば見出します。たたきなさい。そうすれば開かれます」。

天におられる私たちの父なる神様。

あなたが遣わされた御子イエス様は、私たちの罪のために十字架で死に、三日目に復活され、私たちに救いの道を開いてくださいました。この「福音」は、真珠よりも価値があり、私たちのすべてを投げ売ってでも、手に入れるべきほどの高価なものです。あなたはそれを、踏みつけ、拒み、それを宣べ伝える者を攻撃するような者には、提供されません。あなたはそれを、求め、探し、たたく者にこそ、与えられます。

私たちは、この「福音」を、「聖なる真珠」として扱っているでしょうか。安物のように、雑に扱い、安売りしていないでしょうか。私たちは、この「福音」の価値をますます知っていくことができますように。またこの「福音」を届けるべき人に届けていくことができますように。

この祈りを私たちの救い主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。